

広島銀行との間で留学生インターンシップを実施

このたび、本学に在籍する留学生（短期交換留学生）が広島銀行本店等での実務研修（インターンシップ）を受講しました。

この広島銀行との留学生インターンシップは、昨年（12月上旬）に開催された「広島大学国際交流懇親会」での席上、広島銀行代表取締役頭取の高橋 正氏が牟田学長との懇談の折りに提案がなされたもので、その後、双方で実施に向けて調整を重ねた結果、本年2/13～21の期間で試行的に実施する運びとなりました。

今回、インターンシップを受講する本学の留学生はHUSAプログラム(Hiroshima University Study Abroad Program)で学んでいる燕山大学（中国）及び慶北大学（韓国）からの2名の交換留学生であり、研修期間中、銀行業務に関する接客応対、資金証券部他関連部での実務、そのほか関係施設見学、そして最終日には人材開発室でのレポート作成・提出という研修内容を受講しました。

なお、本学と広島銀行の間には平成16年4月に包括的研究協力覚書協定が締結されており、人材育成に資する相互協力によるこのような留学生インターンシップの今後の発展が期待されます。

研修初日、銀行業務についての説明を受ける留学生



【2006.2.18 中国新聞】

情報
ポケット

広島銀が留学生受け入れ
広島銀行（広島市中区）は、包括的な協力協定を結んでいる広島大（東広島市）の留学生を受け入れるインターンシップを始めた。写真：日本の企業文化を学んで

もう狙い。まず教育学部で昨年九月から学ぶ中国の曹佳俊さん（21）と韓国の李孝淑さん（23）の女性二人が十三日から二十一日まで、同行の研修所や国際部、資金証券部で実習する。李さんは「日本で就職も考えており、経済活動で重要な役割を持つ銀行業務を勉強したい」と意気込んでいた。

広島銀は二〇〇四年四月、広島大と協定を締結した。今後、留学生を対象に半年程度のインターンシップも検討する。